

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	77 -	事業名	農楽校事業	担当部課	建設部みどりの推進課
------	------	-----	-------	------	------------

基本情報	総合計画	基本方針	1	万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	7	農のある暮らし・農のあるまちを支える	款	5	農林水産業
		施策の進め方	-		項	1	農業費
	まちづくり行程表	フラッグ	F3	「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちにへ	目	7	長久手田園パレー事業費
		政策分類	10	“農”が持つ多様な役割をまちづくりに生かす	大事業	4	農楽校事業
その他(関係法令、要綱等)	長久手農楽校設置要綱						
事業開始の背景、経緯等	長久手田園パレー事業の生産振興関連施策として、多様な担い手の育成を目指し、農業を始めたい人又は農作業を体験したい人が、農作業を行うにあたっての基本的又は実践的知識及び技術を習得するために開設された。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 農業を始めたい人又は農作業を体験したい人が、農作業を行うにあたっての基本的又は実践的知識及び技術を習得することで、多様な担い手の育成を目指す。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 農作業を体験したい市民、農業を勉強したい市民、農業を始めたい市民					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 農場での実習、農業に関する講義を通して、希望する市民に農業知識、技術を習得してもらう。					
	事業を構成する事務事業	① 農楽校事業	改善・見直し	④			
	②			⑤			
	③			⑥			

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	決算	予算		1,891	1,946	1,946
決算					1,835	1,736	1,771	
人件費(B)	千円	決算		-	1,146	2,819		
総コスト(A)+(B)	千円	決算		-	2,882	4,590		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 修了生(農業知識、技術を習得した市民)	人	目標	40	40	40	40	40
			実績	36	32	33	28	
	B		目標					
			実績					
C		目標						
		実績						
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 様々な「農」に関わる市民を増やし、多様な農業の担い手を育成するため、修了生(農業知識、技術を習得した市民)を指標とする。								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町にも同様な農業塾の取組が行われている。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 開校から15年目を迎え、ここ数年は応募人数が定員に達しない状況である。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 開校から15年目を迎え、講師・コーチの高齢化、カリキュラムの硬直化、事業の市民への周知不足が課題としてあげられる。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 修了生の事業実施・運営への参画を促進するとともに、事業の運営体制を更新する。 市民へ事業の周知を行い、ニーズの掘り起こしを図る。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 様々な「農」に関わる市民を増やし、多様な農業の担い手を育成するための学習機関として、多くの市民が参加する場とする。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		農楽校事業										
番号	①	事務事業名	農楽校事業		款	5	項	1	目	7	大事業	4	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成16年度		終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	対象：農作業を体験したい市民、農業を勉強したい市民、農業を始めたい市民 手段：農場実習や加工実習、販売実習、講義を実施
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 農場での実習、農業に関する講義を通して、希望する市民に農業知識、技術を習得してもらう。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		1,891 1,835	1,946 1,736	1,946 1,771	1,961
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
① 農楽校講師報償金						761	千円
② 消耗品費						535	千円
③ 光熱水費						285	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
修了生（農業知識、技術を習得した市民）	人	目標	40	40	40	40	40
		実績	36	32	33	28	
		目標					
＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞							
<ul style="list-style-type: none"> 農場(3,500㎡)実習50回・加工実習3回・販売実習1回・農業講義(座学)10回 保育園連携事業(芋掘り遠足) 市民向け収穫体験・市民向け加工体験(味噌造り)各1回 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

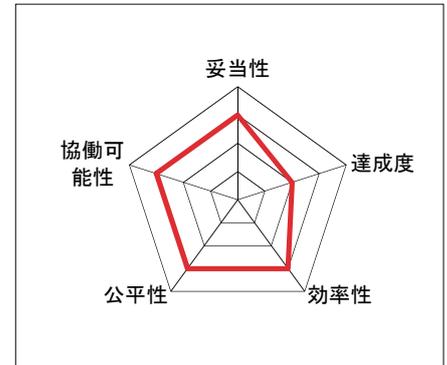
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
・講師、コーチの高齢化

5. 前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞
※新規行政評価対象
(何をどのような状態に改善したのか)
-

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	2
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
農に関する知識・技術を持ち、様々な場面で「農」に関わる活動に携わる人が増えている。

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)

事業開始当初は応募状況が好調であったこともあり、農楽校事業の市民への周知活動が疎かになっていた。
--

7. 今後の方向性

改善・見直し
【コメント】 (改善の方法、今後の具体的展開など)
<ul style="list-style-type: none"> 農楽校事業への市民参加を促進する。 農あるくらしの担い手となる、農に関わる市民を継続的に増やしていく。